

## 世界の人とふれあいタイム

2010年10月31日 実施

今回のゲストの呉 艶玲さんは、2007年の7月に来日し、日本語学校で勉強した後、現在は早稲田大学の大学院で勉学に励んでいます。将来の夢は大学の先生になって、世界の色々な人々に日本語を教える事です。そんな呉さんに、今回は彼女の出身地である、瀋陽(中国 遼寧省の首都)について、ビジュアル映像や音楽、写真等を活用し紹介して頂きました。



瀋陽故宮

瀋陽市の面積は1.3万km<sup>2</sup>、人口776万人、緯度は約41度で日本の函館市とほぼ同じだそうです。また居住する民族は多様で漢族を中心として、満州族、朝鮮族、回族、モンゴル族など、約40以上の民族が

存在しています。なお瀋陽は、東北地区最大の総合工業都市で、この地区の政治、経済、文化の中心であり交通の中核で、札幌、川崎市と友好都市でもあります。また2003年「東北振興政策」が打ち出され、現在は自動車、工作機械、航空、化学、電子情報、医薬業界に強みを持っているそうです。

文化面では、上記写真の瀋陽故宮は世界文化遺産があり、北京の故宮を除き完全に保存されている、中国第二位の宮殿建築群です。

結婚については、相手を探すのに、親たちの合コン：自分の子どもたちの交際相手(結婚相手)を見つけるため、野外お見合いの会みたいなのがあります。具体的に言うと、公園の木に自分の子供の本籍、民族、年収等を記載した紙を貼り、それを見た他の親が気に入った場合に(親に気に入られる事が先決)、コンタクト出来る仕組みになっています。これこそ中国・瀋陽版婚活デビュー(新文化)で、その背景には結婚紹介場がなく、ネットワークも小さいからです。

なお結婚式の時期は、占いで決めているそうです。日本風に言えば大安・しかし、中国では「生辰八字」により最善の時を選び、また結婚式での色は赤(下着、ベルト等)で、豊かさや福の象徴であり、またこの時お金をポケットに入れる事で「お金には困らないように」との拘りがあります。

最後に瀋陽は、冬はとても寒いところですが、人の心は温かく人情味があつてとても良いところで、観光を兼ねて「是非おいでください」とのことでした。



呉さんの講演光景

世界の人とふれあいタイム委員 生山龍哉

## 日本語を母語としない親子のための 高校進学ガイダンス

10月31日(日)の午後、クリエイトホールで、高校進学ガイダンスを、初めて八王子で開催しました。当日は、市立中学校、都立高校・私立高校の先生方など、多



通訳を囲んで説明を真剣に聞く参加者

くの方々が待機し、日本の教育システム、高校受験のスケジュールや試験の受け方などについて、参加者に詳細にアドバイスをしました。学校の選び方や受験方法など対策についての個別相談も行いました。日本語がよくわからない親子には研修を受けた語学ボランティアが通訳をしました。参加親子は11組、36人でした。

## 留学生八王子ふるさとプログラム ウィンター・パーティの報告

留学生八王子ふるさとプログラムでは、全体交流会として、10月のパーベキュー大会に続き、12月12日(日)に、八王子スクエア11階「クレア」で、Winter Tea Partyを開きました。9か国からの留学生とファミリー、約60名が一堂に集い、「ファミリーと留学生のペア」という枠を超えて楽しみました。

留学生同士・ファミリー同士の情報交換や別の留学生・ファミリーとの交流、交流の報告や感想を述べ合ったり、留学生によるお国自慢料理の紹介、簡単なゲームなどで2時間を過ごしました。

まだ日本に慣れない5月、緊張感あふれたファミリーとの顔合わせ時とはまるで違い、今は日本語にも慣れ、ファミリーと和気藹藹に楽しそうに過ごす様子が垣間見られました。



「日本人は冷たい」と言った留学生の言葉を聞いたことがありました。もしその留学生がこのふるさとプログラムを知ったら、日本に対する印象が変わったことでしょう。

市民ファミリーからの温かい手が差し伸べられ、八王子で学ぶ留学生は、「八王子は第二のふるさと」と、きつと感じていることと思います。

このプログラムは、5月の顔合わせから始まり、来年の3月で終わります。帰国する留学生もいれば、まだ日本で勉強を続ける留学生もいます。このプログラムを離れても、巡り会った留学生とファミリーの交流が今後も続き、そしてまた次年度、新しい多くの出会いが生まれることを期待したいものです。

留学生八王子ふるさとプログラム委員長 林田房子